

# 奈良経済産業協会

NARA ECONOMIC AND INDUSTRIAL ASSOCIATION

# NEWS

平成30年1月 第32号



謹賀新年



## 平成30年 年頭のごあいさつ



奈良県知事  
荒井 正吾

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

一般社団法人奈良経済産業協会の皆様には、輝かしい新年を健やかに迎えの事とお慶び申し上げます。また日頃から、奈良県政の推進にご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

昨年は、奈良県で「第32回国民文化祭・なら2017」「第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会」を全国で初めて一体開催致しましたが、皆様のご協力により成功裏に終えることが出来ました。誠に有り難うございます。

現在、奈良県では、急速な高齢化、人口減少が進んでいます。これはベッドタウンとして急速に人口が増加した地域の特徴であり、その対応は本県の重大な課題となっています。そのため、「脱ベッドタウン」、「バランスの取れた地域づくり」を推進し、「住んでよし」「働いてよし」「訪れてよし」の奈良県を実現したいと考えています。

とりわけ産業・雇用分野においては、投資・消費・雇用が県内で好循環するよう、本県経済の活性化に向けた取組を進めてまいります。

まず、「産業興し」の取組ですが、生活関連製造業などをリーディング分野、農林業などをチャレンジ分野とし、県産品のブランド力向上、販路拡大、意欲ある起業家の支援など、各産業分野の育成に関する様々な施策を推進してまいります。

昨年4月に地元の雇用を担い、地域経済の安定と住民の生活の向上に寄与してきた小規模企業に焦点をあてた「奈良県小規模企業振興基本条例」を施行致しました。日々努力する意欲のある小規模企業が持っている独自性や地域との関わり、多様性といった特色が活かされ、それぞれの企業が置かれた状況

の中で本領を発揮していただき、小さくても強い、小さくても永く続く企業に育っていただけるよう、環境整備を推進して参ります。

また、県内においては、企業の立地が着実に進んでいます。経済産業省及び近畿経済産業局の「工場立地動向調査」によれば、平成28年には、近畿圏で兵庫県に次いで2位の32件となり、平成29年上期でも21件と好調です。引き続き、高速道路周辺など立地環境に恵まれている工業ゾーンの創出を目指すプロジェクトも進め、企業誘致に取り組んでまいります。

雇用面では、平成29年10月の就業地域別の有効求人倍率は1.58倍となり、これまでの最高値を更新しました。これは近畿では滋賀県に次いだ数字となっています。雇用が安定している中で、逆に人手不足が顕著になってきており、県内企業の人材確保に向けた取組や、企業と就職希望者のミスマッチの解消に向けた高校生や大学生向けの有給インターシップの取り組みなどを行ってまいります。さらに、「県内就業の促進」の取組として、県内事業所における働き方改善の推進のため、業種ごとの課題を洗い出し、改善策の提案のとりまとめを進めてまいります。

これからも、県民の皆様のご意見やご提案に十分に耳を傾け、力を合わせてより良き未来を築いていきたいと考えています。特に本県を代表する企業の集まりである貴協会の果たすべき役割は重要度を増しておられます。地域の知恵・技術の取りまとめ役として、新たな事業機会の創出に挑戦いただくなど、更なるご活躍を期待申し上げるとともに、今後とも奈良県経済発展に向けた重要なパートナーとして県政へのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

年頭にあたり、今年が明るく希望の持てる年となりますとともに、皆様方のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げます、挨拶といたします。

## 年頭のごあいさつ



一般社団法人奈良経済産業協会  
会長 佐藤 進

新年あけましておめでとうございます。

本年が皆様方にとりまして、より良い一年でありますよう心よりご祈念申し上げます。

さて、昨年2017年に、産業・社会の面で最も注目されたことは、働き方改革とAI（人工知能）に関することだったと言えます。

長時間労働の削減や同一労働同一賃金の導入など、労働人口の減少・人手不足と相まって、働き方改革は喫緊の課題となっています。またAIは、皆様ご存じの通り、人間しか出来なかった業務をAIに肩代わりさせる事例が数多く出ています。

そして、この二つは密接に関係しあっています。

AIの進化により、従来なら自動化・機械化が難しかった業務にも活用され、生産性の向上や人手不足の解消など大きく寄与しています。反面、野村総合研究所の未来創発センターが、日本の労働人口の49%がAIやロボットなどで代替可能になると発表するなど、当初の単純作業から判断業務にまで及びつつある中、人間の職・雇用を奪うのではという懸念が示されており、「働き方改革」と合わせて先を見越した議論も必要かと思います。

この中で、年末にかけて“品質”に関する問題が数多く出て参りました。日本を代表する製造大企業によるデータ改ざんや無資格者による検査などが相次いで発覚してきました。

これらは、法規・社内の基準・顧客との契約などの“決まり”に対して逸脱し、決めた通りに仕事を行わなかったものであります。

これは“品質に関する”問題ではありますが、“品質の問題”ではなく、別のもっと深刻な問題だという危機感を持つことが必要だと思います。

製品が、決められた範囲に収まらないだけなら、“ものづくりの問題”ではありますが、今回の真の問題は、決められた範囲を超えたがデータを改ざんして無かったことにして顧客に出していた、それが長期間に亘って恒常的に行われていたということであり、本質的に違うものだと考えます。

これは、現場任せにしていたことや、現場の厳しい現状への理解不足など、経営や管理のあり方、土台となる企業風土が問われていると言えます。

原因は多様で詳細は分かりませんが、現場には“これくらいなら”という緩みがあった一方で、現場は求められることが多くなるが人員は慢性的に足りない状況があったのではと思います。また検査など利益を生まない部門への経営資源が投下されづらい現実もあったのかと思います。

例として、ヘルペスという病気がありますが、これと同じだと思います。抵抗力が低下し限界を超えた時に、逃げるところがなくなり一線を越えた時に、症状が出てくるのだと思います。

これまで、現場の弛まぬ努力と一丸となった現場力、顧客との約束を守る・信用を大事にするということが日本の経営の根幹を支えてきました。

これらは、貸借対照表(B/S)にある固定資産などの「有形資産」ではなく、表に出ない「無形資産」であります。その最大の資産が人材であります。

この信用は、一朝一夕に築き上げることはできず、経営者及び社員が共に創り育てるものです。

顧客の要望や現場の課題に向き合って、一つずつ改善していくことで、顧客(社会)・従業員・会社が“三方よし”になるように、真摯に向き合っていくことが経営者に求められていると思います。

経営には金(かね)は必要ですが、経営者には、いぶし銀(ぎん)が求められます。銀は、ほって置くとすぐに黒ずんできます。常に磨いて維持しないとイケません。企業経営も同じです。常に磨き続けていくことが大変重要だと思います。

“企業は人なり”と言われるように、経営者を含めて、人の頑張りこそが企業発展を支えます。

協会としましても、自ら行動できる人材の育成と人間力を磨く取組も平行して進めて参ります。

本年も微力ながら奈良県産業の振興・発展に誠心誠意取り組んで参りますので、皆様のご協力、ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

## 女性リーダー懇話会

人材育成委員会主催 (H29.10.19)

女性活躍に取り組んでおられる企業の女性リーダーの方をお招きし、他社の女性リーダーとの意見交換・交流を通して、自ら成長していく女性リーダーの醸成に向けて「女性リーダー懇話会」を開催致しました。



佐藤薬品工業(株)  
吉山輝美氏

第1回目は、佐藤薬品工業(株)の経理部 課長代理 吉山輝美様、生産管理課 係長 山下克美様にお越し頂き、両立支援や働きやすい職場づくりの取組と共に、働く女性リーダーとしてのご経験談をお話頂きました。



佐藤薬品工業(株)  
山下克美氏

佐藤薬品工業(株)様の企業概要のご解説の後、吉山様、山下様ご経験談をお話頂きました。

吉山様からは、「子育てと仕事を両立していく中で、重要なことは時間を作るということ。課長代理としての立場上、残業する時もあるが、子供がまだ小さくてなかなかできないため、朝の時間を有効活用している。早めに出勤し、前日残した仕事を片付けたり、一日のスケジュールを立てる等、効率よく仕事ができるようにしている。日々の業務を単に作業として流さずに、それぞれのもつ意味を考えながらこなしていくことで視野が広がり、自身が成長していけると思う。」とお話頂きました。

山下様からは「実家が遠方にあるため頼ることができず、主人と協力し合って子育てしている。通常業務の他に、社内システム構築にも携わっており大変忙しいが、時間を無駄なく有効に使えるよう仕事の流れや手順等を常に考えながら仕事をしている。」とお話頂きました。

参加者からは「他社の方の意識の高さに驚いた。リーダーとなって不安だったが、これから頑張っていきたい。」とご感想を頂きました。



## 大学・企業懇談会

労務委員会主催 (H29.11.14)

企業の採用担当者と大学の進路指導担当者との理解と交流を深め、今後の人材確保に役立てる為に「大学・企業懇談会」を開催致しました。

まず、大学と企業双方へ実施したアンケートの調査結果を報告させて頂きました。大学側からは、H30年4月入社予定の内定率は、昨年度と同程度もしくは増加が9割を占めており、企業側からは、今年度の採用数が昨年比べて同程度もしくは増加が7割を超えていると報告されました。

また、(株)マイナビ 事業推進統括部長の林 俊夫様から「今期の就職・採用状況と来期の展望」についてご解説頂き、今期はエントリー募集に苦戦した企業が多く、来期は学生とリアルな接点が設けられる学校訪問や学内セミナー等に重点を置く企業が多いとの報告がありました。

アンケート結果と基調報告を踏まえて、企業と大学の意見交換会を実施しました。

企業側からは、より良い人材に入社してもらい、定着して活躍してもらえる受入体制の構築に取り組んでいるとの意見があり、大学側からは、企業が求める人材像について、学生と企業との意識の差を埋める為にフィードバックして頂きたいとの意見がありました。

意見交換会終了後に名刺交換の場として、就職・採用に関する現状について、情報交換を図ることを目的とした交流会を開催しました。

参加者からは、奈良県内の企業と県内外の大学が一堂に会する場を提供していただくことで、意見・情報交換ができ、非常に有意義で大変参考になりましたとの感想をいただきました。

今後も、会員企業の人材確保に繋げることができるよう尽力していきます。



(株)マイナビ  
就職情報事業本部  
事業推進統括部長  
林 俊夫氏



## 経営者懇話会（第3回）

人材育成委員会主催（H29.12.12）



阪神電気鉄道(株)  
甲子園駅 駅長  
藤森義一 氏

経営者懇話会第3回目は、阪神電気鉄道(株) 甲子園駅長 藤森義一様に、『阪神電車 伝統の継承～流れと場を読む甲子園輸送～』を演題にご講演頂きました。講演概要は次の通りです。

「甲子園駅は甲子園球場だけでなく、商業施設・大学・住宅街に囲まれ、通常でも利用者が多い駅である。試合開催の時は、来場者の70%（平均29,000人）が当駅を利用されるため、いつも利用されるお客様にご迷惑をかけないように、臨時列車を運行している。臨時列車は、球場側に出られる臨時改札がある降車専用ホームに到着した後、両扉を開放させ、他のホームから電車内を渡り廊下として横断することで、直接臨時改札に行けるようにしている。試合前日から、連絡・調整を行い、当日は駅員の増員と共に、手配師と呼ばれる経験豊富な助役がホームにいる駅員に情報の伝達と細やかな指示を行い、スムーズな輸送と安全に努めている。電車1本のズレが大混雑を招くことになるため、あらゆる情報を収集して慎重に検討して決定している。往路の場合は試合開始時刻に間に合うように予め設定できるが、復路の場合は試合終了時刻がわからないため、試合開始後、実際に球場に赴いて観客動員数を計測（人調）し、天候や試合状況等をテレビ等で収集しながら試合終了時刻を予想して対応を検討する。定期列車の間に予め設定している臨時列車の内どの列車を運行させるかは、駅長が状況を的確に判断し、予測した終了時刻に間に合うように到着線路の変更（着変）を設定して、初めて臨時列車が運行できる。今後も、徹底した準備と情報の連携、柔軟に対応できる伝統ある現場力を活かして、危険の予防と安全で快適な輸送による、顧客満足度向上に取り組んでいく。」とお話し頂きました。



## 職場改善活動研修会（基礎）

人材育成委員会主催（H29.12.5）



QCサークル近畿支部  
大阪・近畿南地区  
アドバイザー  
北野邦弘 氏

現場力を高める手段として、職場改善活動（サークル活動等）は大変有効且つ重要です。

職場改善活動を進める上で、基本となる考え方や具体的な活動の進め方、基礎的なQC手法について学ぶべく、「職場改善活動研修会（基礎編）」を開催致しました。

この講座は、夏に開催の「活用編」と併せて、「より実践的な活動」に向けた一連の講座です。

講師には、改善事例発表会でご指導いただいておりますQCサークル近畿支部 大阪・近畿南地区アドバイザーの北野邦弘氏にお願いしました。

研修内容は、品質管理の基本的な考え方と共に、①QC的なモノの見方・考え方、②小集団による職場改善を進める上での勘所、③具体的な職場改善活動への取り組み方、④問題解決と課題達成の手順、⑤改善活動によるQC手法やデータの取り方など、事例を交えて説明いただきました。

演習では、課題の要因ごとに層別したデータを大きい順に並べて優先順位を見つけ出す「パレート図」や、課題について人や機械等の視点から要因を魚の骨のような図に切り出し、体系的にまとめた「特性要因図」の作成・活用方法を学びました。

グループ演習では、問題解決の考え方や手順、QC手法の使い方を具体的に理解するため、昔懐かしい「だるま落とし」を例に、“だるま落としがうまくできない”という特性について、「人・方法・材料・環境」の観点から“うまくいかない要因”を探し、うまくいくようにする対策の立案・実施、効果の確認など、一連の流れを学びました。

演習を通じ、実際の現場での課題解決の流れを体験しながら、手法の意味と活用方法を理解することができ、大変有意義な時間となりました。



## 海外視察

今般 11 月 22 日（水）～ 25 日（土）にかけて、ものづくりと観光の両面で発展する台湾へ産業視察を実施致しました。東アジアの製造・物流の拠点として最も早い時期から発展し、現在は I T 関連をはじめ先端分野で注目されています。

歴史的にも日本と関係が大変深い台湾の現況を見聞し、今後の企業経営・海外戦略に活かすべく学んで参りました。

### 【台湾の概略（※ 2015 年値）】

- ・首都：台北市 ・人口：約 2,350 万人（2016 年）
- ・面積：約 36,000km<sup>2</sup>（九州とほぼ同規模）
- ・名目 GDP：約 5,300 億 US ドル（2016 年）
- ・一人当たり名目 GDP：約 22,500US ドル
- ・実質 GDP 成長率：1.5%
- ・民族：約 86%が漢民族、約 2.3%が台湾原住民

台湾は、1945 年当時、中国大陸を本拠地としていた中華民国の統治下に入り、1949 年に中華民国政府は台湾に移転し現在に至っている。

20 世紀後半に台湾は急速な経済成長及び工業化を成し遂げ、現在では A P E C にも加盟し、世界第 21 位の経済規模を有し、世界経済におけるハイテク産業は重要な役割を担っている。

台湾は旧日本領でもあり、歴史的に関係が深く、地理的に近く、貿易をはじめ経済的交流が強い。

特に、台北国際金融センタービルや台湾高速鉄道（台湾新幹線）の建設など、台湾の公共事業には日本企業によるものが多く上げられる。

日本との産業・貿易の関係では、輸出額は約 200 億ドルで、相手国としては 4 位であり、また日本からの輸入額は約 400 億ドルで、相手国として 2 位である。

日本からの投資案件としては、2016 年には 458 件で約 3 億 5,000 万ドルにも達している。投資した企業の中で、今後直近の事業の方向性としては、拡大していくが半数を超えており、現状維持を含めて、進出した企業の 97%以上が事業継続・拡大を考えているなど、投資先として有力と認識していることが伺える。

2017 年の経済状況は、GDP 成長率は第 1・2 四半期とも 2%台のプラスで通年予測も上方修正し、また輸出入も 2 桁の伸びなど、経済状況は好調であり、下期も需要が続くと予想されている。

### 1. 高雄経済発展局／高雄市政府

高雄は地理的優位性から国際貿易港として工業発展を遂げたが、既存産業のグレードアップ化や、後継者問題、少子化問題が課題となっており、医療分野・航空機分野へのシフトが進みつつある。

高雄に進出の海外企業は 206 社、取扱高 478 億台湾 \$（約 1,912 億円）中で、日本は第一位の貿易国であり、強い絆で密接な関係にある。

優良企業表彰を行って 8 年目を迎え、日本企業をサポートし、更なる高雄への投資に向けてプラットフォームを造り、戦略的産業・重点的産業別にサポート力を強化している。金属・石油・化学事業についても高付加価値化を推進している。

事業の再構築にあたって、市政府が積極的にサポート・橋渡し役を担っており、旺盛な文化交流も通して、各産業の育成・発展に取り組んでいる。



### 2. 港湾港務有限公司 T I O C

台湾には、6 つの港湾自由貿易港／輸出加工区があるが、取扱高では高雄港が 70%を占め、国際貿易港として、24 時間稼働で通関作業を行い、高効率を重視して世界五大陸へ輸出入を行っている。

輸出入高の一位はやはり中国で、リードタイムは、香港・青島なら半日、大阪で 3 日である。

市民に水に親しんで貰えるように、エコポートを目指し、30 年後の青写真を策定している。

貿易・運輸・観光の機能を有しており、多国籍企業による特長ある港湾で、100 社以上の企業誘致を行って創造的で環境重視を目指している。



## 海外視察

### 3. 台湾松下電器股份有限公司

パナソニックグループでは、タイでの創業に続いてアジアで2番目の1962年創業で、今年で55周年を迎える。家電・空調機器・車載関連・LED等のB to B、B to Cの事業を展開している。

台湾グループとして10社、従業員3,346名、販売高978億台湾\$ (3,521億円)である。家電では、冷蔵庫・洗濯機・エアコン・テレビを世界各国に、厦門工場では調理小物製品を国内外に販売し、再輸出拠点として機能を有している。

当日は、最新のショールームと冷蔵庫・洗濯機の生産を見学させて頂いた。現地社員さんが流暢な日本語で丁寧なご案内を頂いた。500Lの冷蔵庫や14kgの洗濯機等の大型の製品が多く、台湾では共働き家族が多く、週末にまとめて買い物・洗濯するため大型化のニーズが高いとのこと、現地のニーズに合った製品・事業展開が参考になった。



### 4. 台湾製薬工業同業公会

国民の健康のために発足した協会です。1948年発足し、80社120名が加盟。東京・大阪・沖縄等で日台間の交流会を開催し、情報の共有をしている。

奈良県内の製薬メーカーとの取引のある会社や、日本人を奥様に持たれる社長の会社もあり、多くが親日家であった。

参加者にも薬品関係の企業もあって、幅広く意見交換を行った。その中で、日台で共通の課題を抱えていることが分かり、企業経営に国境はなく共通であることは印象であった。



### 5. 鈞永科技有限公司

同社は、台湾の地場企業であり、家電・情報機器の金属加工・樹脂成型を手がけておられる。

社長の山川董事長は日本人であり、詳しく同社の事業内容を解説頂いた。

会社の外観・内装共に、現代風の綺麗な建屋で積極的に投資されている。自社ブランドに挑戦するも苦戦しておられ、現在はOEM/ODM主体で、A社パソコンのヒンジ等の部材を生産されている。A社の依存度が70%もあり、取引先を分散しリスクヘッジの必要性を痛切に訴えておられた。

工場には、日本製や台湾製のマシニングセンタやNC旋盤が多数あり積極的に投資しておられる。

工場見学では、完成品を手作業で検品・メンテナンスする工程があり、厳しい品質要求に対応した品質力の高さが同社の強みであった。



### 6. 鳥山頭ダム・九份

台湾人が親日家といわれる原点でもあり、東日本大震災の時に多くの支援を頂くきっかけでもある日本統治時代に八田與一氏が策定し建設された鳥山頭ダム(八田ダム)・記念館を訪問した。

台湾の元総統・李登輝氏は、講演等で『台湾の大恩人』と紹介している。ダムの満水貯水量は1億5千万トンで、黒部ダムの75%に相当、水路の全長は1万6千kmと万里の長城の6倍。ダムの完成に伴い、3年輪作で農作物を作ることができ、台湾の黒字化に貢献した。志の高い日本人による献身的な活躍が、親日国の礎であると感じた。



## 平成 29 年度卓越技能者厚生労働大臣表彰（現代の名工） 受賞おめでとうございます！

【現代の名工】は、卓越した技能を持ち、その道で第一人者と目されている技能者の方が表彰されるもので、技能の世界で活躍する職人や技能の世界を志す若者に目標を示して、技能者の地位と技能水準の向上を図ることを目的とされています。

本年度、弊会会員企業 シバタ製針(株) 生産技術顧問 生野邦彦様が受賞されました。  
会員ともどもお祝い申し上げます。



シバタ製針株式会社  
生産技術顧問  
生野邦彦 氏



記念 楯

## ものづくり研究会

ものづくり委員会主催 (H29.11.17)



(株)三共合金鑄造所  
代表取締役  
奥谷誠一郎 氏

ものづくり研究会 2 回目は大阪市西淀川区にあります、(株)三共合金鑄造所様を訪問しました。

同社は、鑄鋼・鑄鉄・非鉄金属の各鑄物鑄造の加工・組立を行っておられます。

当日は、奥谷社長様より企業概要のご説明、前田善之課長様より、工場見学及び職場環境の改善及び環境低負荷新技術による鑄造方法についてご解説頂きました。

一般的な鑄型造型では、砂に樹脂粘結剤を使用するため、注湯時（鉄等を溶かしたものを鑄型に流し込むこと）に悪臭・ガスが発生し、また鑄型から外す『型ばらし』による騒音・粉じん等が作業環境・周辺環境に影響を与えているとのこと。

同社は、周辺に住宅地が増えたことで、環境に配慮した『凍結鑄造システム』を開発されました。

水を用いて砂を固めた鑄型を -40 度で固め（凍結）、鑄型に注湯しても水蒸気のみが発生するだけで臭気もなく、また凍結が解けると自然に砂の鑄型が崩壊するため「型ばらし」の工程が不要とな

り、砂もそのまま再使用できるので、工程の簡素化・省力化・コスト削減に繋がっているとのこと。

工場見学では、-40 度の鑄型製作工程、一般の鑄型と凍結鑄型に注湯する工程を見学しました。

溶かされた鉄が鑄型に流し込まれた瞬間に、一般的な鑄型からは臭気とガスが発生し、高温の熱を感じましたが、凍結鑄型からは臭気も熱も全く感じませんでした。

社長様からは、「凍結鑄造は、大型・厚物は鑄型が溶ける時間の関係で今はできないが、更に研究開発を進め可能にし、凍結鑄造の割合を増やしていきたい。」とお話頂きました。

画期的な新技術の鑄造法を間近に見ることができた有意義な時間となりました。



# 事務局だより

## 新入会員様ご紹介

### 西川運輸倉庫株式会社

#### 【概要】

創 業：昭和9年

資 本 金：2,500 万円

代 表 者：代表取締役

西 川 武 志

所 在 地：〒639-2121

葛城市新村 117 番地 2

T E L：0745-65-2001

F A X：0745-65-2181

U R L：http://ntwlogi.com

従 業 員：48 名（全社） 34 名（奈良事業所）

事業内容：貨物自動車運送事業

一般貨物自動車運送事業と営業倉庫業を行っています。奈良県に本社営業所・神奈川県に相模原営業所の2拠点で紙製品・医薬品などを近畿圏内や関東圏内を中心に配送しています。また精密機械輸送や据え付け工事など付加価値のある輸送も手掛けています。市場環境の多様、多数化とともに合理化、スピード化、流通の一体化が求められる物流環境の中、輸送・倉庫保管・物流加工・荷役・情報システムをトータルで行いお客様に提供しています。



## コーチング研修

管理者・リーダーは、対話によるコミュニケーションをもとに、部下・後輩の能力とやる気を引き出し、自発的行動を促して目標達成までをサポートしていくことが重要な役割の一つです。

「聴く力」「対話する力」「相手を知る観察力」等のコミュニケーション・コーチングスキルを学びます。是非、ご活用下さい。

記

と き：平成30年2月21日（水）

13:00～17:00

場 所：奈良県産業振興総合センター

2F 拠点研修室

参加費：5,400 円/人（消費税・テキスト代含）

申込み：事務局までご連絡願います。

## 品質ISO内部監査員養成講座

品質マネジメントシステム国際規格 ISO9001 は、2015 年秋に 2015 年版が発行されました。

2008 年度版の認証を取得している企業は3年以内の移行が必要となります。2008 年版規格をベースに、2015 年版の改訂内容を加えた内容で、内部監査講座を実施します。

講師には、審査機関で実際の認証審査に携わっておられる主任審査員を講師としてお迎えし、審査する側・される側の留意点等、実態に即した内容となっております。

多数のご参加をお待ち致しております。

記

と き：平成30年2月20日（火）・21日（水）

9:00～17:00

場 所：奈良県産業振興総合センター

2F 拠点研修室

参加費：25,920 円 / お一人様

（消費税・昼食・テキスト代等含）

申 込：事務局までご連絡願います。

## 代表者変更

☆共栄社化学株式会社 奈良工場

(旧) 米田 茂則 (取締役工場長)

↓

(新) 福岡 重範 (取締役工場長)

☆特殊ベアリング製造株式会社

(旧) 前田 篤延 (代表取締役)

↓

(新) 前田 篤也 (代表取締役社長)

## 住所変更

☆三笠産業株式会社

(旧) 〒635-0817

北葛城郡広陵町大字寺戸 53

↓

(新) 〒635-0817

北葛城郡広陵町大字寺戸 27

# 謹 賀 新 年

## 佐藤薬品工業株式会社

代表取締役社長 佐 藤 進

〒634-8567 橿原市観音寺町9番地の2  
TEL(0744)28-0021

## 株式会社イムラ封筒

取締役会長 井 村 守 宏

〒540-0026 大阪府中央区本町二丁目1番13号  
TEL(06)6910-2511

## 関西電力株式会社 奈良支社

理事 支社長 木 村 治 久

〒630-8548 奈良市大森町48番地  
TEL(0742)27-8916

## 株式会社きんでん 奈良支店

執行役員支店長 辻 嘉 明

〒630-8133 奈良市大安寺6丁目20番8号  
TEL(0742)62-8771

## 三和澱粉工業株式会社

代表取締役会長 森 本 俊 一

〒634-8585 橿原市雲梯町594  
TEL(0744)22-5531

## 大和ハウス工業株式会社 奈良工場

工場長 尾 崎 学

〒630-8453 奈良市西九条町4丁目2-2  
TEL(0742)64-1500

## DMG森精機株式会社 奈良事業所

専務取締役 大 石 賢 司

〒639-1183 大和郡山市井戸野町362番地  
TEL(0743)53-1121

## 奈良交通株式会社

代表取締役会長 谷 口 宗 男

〒630-8651 奈良市大宮町1丁目1番25号  
TEL(0742)20-3116

## 株式会社南都銀行

取締役頭取 橋 本 隆 史

〒630-8677 奈良市橋本町16番地  
TEL(0742)22-1131

## 三笠産業株式会社

代表取締役 林 田 壽 昭

〒635-0817 北葛城郡広陵町大字寺戸27  
TEL(0745)56-5581

### 奈良経済産業協会NEWS 第32号

平成30年1月発行  
一般社団法人 奈良経済産業協会

〒630-8031 奈良市柏木町129-1 奈良県産業振興総合センター内  
TEL(0742)36-7370 FAX(0742)36-7371  
<http://www.nara-eia.or.jp> E-mail : [info@nara-eia.or.jp](mailto:info@nara-eia.or.jp)